

助成事業実施報告書

団体名 RDAJapan

代表者・役職名 氏名 理事長 中田順寿

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

障がい者乗馬活動のインストラクター養成のための講習会の開催

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

RDA は、障がいを持つ人たちにも健康者と同じように乗馬を楽しむ機会を提供し、健康や暮らしの質の向上を図ることを目的として1964年に結成されたイギリスに本部を置く慈善団体で、アン王女が総裁を務めている。RDAJapan は、このイギリス RDA の理念に基づき、RDA 本部より承認を受け、1988年に日本の実情に合った形で任意団体として発足した。現会員数 201 名

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

RDAJapan では、国内の障がい者乗馬のインストラクター養成を最初に創めた団体としての実績と実益を必要とされ、人材派遣や講習会開催を依頼されている。
安全で正しい活動を展開できる障がい者乗馬を行なう人と場所を増加させる為に、各地でインストラクター養成のための講習会を開催することが急務であるため。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

<ホースセラピー講習会>

「ホースセラピー活動に興味がある。これからお手伝いしていきたい。」

という方々へ、実際のホースセラピー活動を通して、「安全に・楽しく・計画的に」できるよう馬の取扱い方やリーダー・サイドウォーカーの役割など、RDA 活動の基本をレクチャーする。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

講習会は、参加者は乗手 5 名、付添いを含めて 20~30 名、約 3 時間前半の内容となった。

前半は①馬の取扱い方②リーダー・サイドウォーカーの役割③RDA 活動の基本、について、RDAJapan、A 級インストラクター 中田順寿講師による講義。後半は実際の活動を想定し、実技形式で行なった。

今回、RDAJapan 初の多摩地域での講習会を一般向けに開催することができ、「ホースセラピー」「障がい者乗馬」の名前を知ってもらい良いきっかけとなった。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回のプロジェクトは、東京都下(東京都内)で行なう RDA 活動講習会ということで、RDAJapan にとって初めての試みであった。

そのため活動形態が大幅に拡大し、予定していた講習会 1 回分の予算の変更を余儀なくされた。

都内には障がい者乗馬(ホースセラピー)に対応できる馬を見つけることができず、借馬せざるを得なかった。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり 特になし

